

ふれあい大阪

〈発行所〉大阪退職者連合 大阪市中央区大手前2-1-7
大阪赤十字会館5階／連合大阪内(☎540-0008)

No.67 2025年
12月15日

発行責任者 山下 博 司
編集責任者 神 崎 幸 広

Tel 06-6949-1105
Fax 06-6944-0055

クラシック音楽と大阪城ハイキング

木管五重奏の音色に癒される

近畿ブロックハイキング



●近畿の仲間が参加しての出発式



●司会の松本事務局長



●アフターアワーズセッションの演奏



●楽器の説明もありました

10月16日、大阪城音楽堂で近畿ブロック「クラシック音楽と大阪城ハイキング」を開催しました。時折雨が降るあいにくの天気でしたが、2府4県から1100人を超える仲間が参加しました。

オープニングとクロージングにアフターアワーズセッションの皆さんが木管五重奏によるモーツァルトやフォスターの楽曲、秋の歌のメドレー等そしてアンコールでは「花は咲く」を演奏していただき、会場の参加者は素晴らしい演奏と音色に酔いしれるコンサートとなりました。

出発式は、近畿ブロックの隅谷正行副代表幹事が

主催者あいさつをしました。

来賓として連合近畿ブロックを代表して連合大阪の田中宏和会長、近畿労働金庫 大阪地区本部の天羽正則本部長、こくみん共済coop 大阪推進本部の上野壽治本部長のご臨席をいただき、それぞれご挨拶をいただきました。

この日の参加者のうち約300人が80歳以上で最高齢は、大阪退職者連合から参加の橋本智恵子さん95歳でした。

コンサート終了後、大阪城やピース大阪などをめぐるハイキングに出発しました。

大阪退職者連合 2026年度定期総会を開催

大阪退職者連合
2026年度定期総会

●全員で力強い団結カンパロー



山下 松本 博司 昌三 事務局長の 新体制が誕生



●山下 新事務局長

大阪退職者連合は11月25日、「2026年度定期総会」を147人の役員と代議員が出席し開催しました。

第1部は、リーガルサポート大阪支部の光山 幸さんが「自分らしい豊かな暮らしのために…知っておきたい成年後見制度の基礎知識」をテーマに講演を行いました。

第2部の総会冒頭にこの1年間に逝去された多くの仲間のご冥福をお祈りし、黙とうしました。総会は議長に齊藤美子さんと山中庸右さんを選出し、議事を進行了しました。来賓として、日本退職者連合の宇田川事務局長と連合大阪の井尻雅之会長の挨拶を受けました。議事に入り、経過報告・決算報告・監査報告を確認した後、第1号議案の活動方針、第2号議案の予算を松本事務局長が提案し、賛成多数で可決しました。第3号議案の役員体制は、山田役員選考委員長が提案し、同じく賛成多数で可決しました。

最後に、松本昌三新会長が新体制での船出の力強い挨拶を行い、参加者全員で団結ガンパローを三唱して総会を終了しました。



●松本昌三新会長



●井尻連合大阪会長



●講師の光山さん



●宇田川日本退職者連合事務局長

定期総会の徳永秀昭会長あいさつ



●徳永秀昭前会長

総会にあたり課題などについて申し上げたいと思います。まず、政治にかかわる課題です。

ご承知のように、昨年秋の衆議院選挙と本年7月の参議院選挙で、自公の与党が両院において過半数割れの結果となり、政治状況が大きく動きました。自民党の総裁選挙後に公明党が連立からの離脱をすると、新たに自民党と維新が閣外協力による連立政権を確立して、高市内閣が発足しました。女性初の総理誕生やトランプ大統領との首脳会談、維新との連立合意書、ASEAN外交などでマスコミが過剰な報道をおこなったことで、3ヶ月もの政治空白がもたらした物価高対策をはじめとする課題解決に向けた具体策や国民生活に直結した喫緊の対策が示されていないにも関わらず、異常に高い内閣支持率があることに、私は強い危機感を感じています。

予算委員会などにおける高市総理の答弁を聞くにつれ、偏見かもしれませんが、過去の日本が歩んだ危険な道、まさしく「富国強兵」政策を思い起こします。「富国強兵」でなく、経済力・技術力・外交力などを発展させながら、軍事偏重ではない安全保障を強化する国家戦略を目指し、国民生活の安全・安定を最重点とする政策の推進を求めたいと思います。

私は、高市政権は非常に「危険な自民・維新連立政権」だと思います。民主主義がファシズムを生み、分断統治して戦争への道を歩んだ暗い「過去の歴史」を思い起こし、再び同じ過ちを犯すことが無いように願うばかりです。

そのためにも、私たちは、日ごろから政治と向き合い、偏ったマスコミ報道やSNSの偽情報に惑わされることなく、厳しい視点で政治闘争を推進しなければならないと考えます。

次に退職者の最大の関心ごとであり、退職者連合の最大の課題は、年金・医療・介護を軸とする社会保険制度の維持・改善課題です。私たちは現役時代、高齢者が安心して暮らせる社会保障制度の確立に力をそそぎ、自らの老後を安心・安全でゆとりある生活を過ごせるために、年金・医療・介護制度の改善に努力してきた経験を持っています。

私の亡くなった親父は東洋紡績労働組合の役員でしたが、私が子供のころから、「年いったら、貯金なんかせんでも、社会保障がちゃんと確立して、安心して老後を暮らせるようになる」と言うのが口癖で、毎晩ゼンセン同盟の役員と飲んではかりました。「余談ですが、お陰で、私は言いつけ通り宵越しの金は持たない生活で、預金の無いのだけは守っていますが、今は、年金収入だけが頼りで生活困窮に陥りつつあります。」大阪府の老人医療の完全無償化が始まった時には、遂にそのような時代に成ってきたかと感激し、まさか今のような状況が訪れるとは思ってもいなかったと思います。

2000年に介護保険制度が発足した時も、「保険」では無く「保障制度」が良いとは思いましたが、理念である「自立支援」「利用者本位」「社会全体で支える」の素晴らしさに大きな期待を持ちました。しかし、私たち高齢者が、現役世代に築き上げた「年金・医療・介護」の各制度が、改悪の危機に直面しつつあります。自民党が中心とする政権は、国民生活を顧みないばかりか、「成長のない時代」に何ら有効な政策を講じることなく、結果、所得や消費が伸びず、税収の伸びが鈍化し、高齢化による社会保障費の増加、財政赤字による国債依存が増大する、負のスパイラルに陥っていました。

少子高齢化社会に対応する社会保障制度改革として、高齢者施策にターゲットを置いた利用者負担の増額と制度改悪をあらゆる角度から進められようとしており、今回の「自民・維新」政策合意書の中でも露骨な改悪文書が示されています。若年層と高齢者を分断して政策の議論を押し付ける手法が露骨に垣間見られます。維新が言う社会保険料の削減は、賃金の引き上げと物価高対策をしっかりとやれば、何ら問題なく生活改善できるのは明白であり、本末転倒の議論としか言いようがありません。年金・医療・介護を中心とする社会保障制度は、現役はもちろん子や孫も好むと好まざるとにかかわらず、必ず制度の恩恵を受けることになります。私たちが目指してきた「生き生きと安心して暮らせる社会」に不可欠な社会保障制度を守るために、我々高齢者が声を上げ、現役労働者や国民すべてに発信し、ともに取り組みを強めなければならないと考えます。

最後に、私は本日の総会で会長を退任します。このような大切な日に、皆様の前で直接、お礼の挨拶をすることができず、非常に残念で申し訳ない気持ちでいっぱいです。2017年に事務局長に就任し、事務局長を4年、2021年から会長を4年務めさせてもらいました。その間、多くの皆さんにお世話になりますが、コロナ禍で思うように活動できなかった時期にご一緒し、ご指導をいただいた、林晃前会長には、心から感謝する次第です。

あらためまして、無事に任期を全うできたことは、構成組織と役員の皆様のお陰と、深く感謝申し上げるとともに、大阪退職者連合の一層の発展を祈念申し上げお礼のご挨拶とします。

近畿ブロック退職者連合 第32回定期総会を開催



●安全運転の大切さを再確認しました



●あいさつする徳永代表幹事

近畿ブロック退職者連合は10月28日、大阪市内で第32回定期総会を開きました。

記念講演では「高齢者の免許更新と自転車の交通ルール」をテーマに大阪府警東警察署からお話をいただきました。高齢者の事故が増えている中で車だけでなく自転車も交通ルールを守り安全運転することの大切さを再確認する講演でした。

定期総会は、137人の代議員が出席し、議長に奈良退職者連合の岡寄明子代議員と和歌山退職者連合

の上田長司代議員を議長に選出し、議事が進められました。徳永秀昭代表幹事の挨拶に続き、来賓の日本退職者連合の野田那智子会長と連合近畿地方ブロックの田中宏和代表幹事(連合大阪会長)から連帯挨拶を受けました。総会の議事は、順調に進み、新たな役員体制を含むすべての議案を確認し、最後に「近畿は一つ」を合言葉に総会参加者全員で団結ガンバローを三唱し終了しました。



●総会参加の代議員の皆さん

2026年度近畿ブロックハイキング



日時 2026年10月15日(木)

場所 平城京